



## 研究紀要発刊にあたって

胆振教育研究所長 安宅 錦也

21世紀は、新しい知識・情報・技術が、社会のあらゆる領域での活動基盤として重要性を増す、「知識基盤社会」と言われています。この知識基盤社会では、日々情報が更新し、多様な価値観の人が共に助け合いながら生活を送っていきます。そのため、価値観を共有したり、互いを尊重し合ったりしながら対応していかなければならない時代とも言えます。

このような中、全国各地で起きているいじめ問題、児童生徒を取り巻く社会環境の変化などを受け、平成26年10月中央教育審議会の答申で道徳の教科化が示されました。これにより、小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から新学習指導要領に則り、道徳科として指導することになりました。

この道徳の教科化は、これからの時代を生き抜く児童生徒へ、知・徳・体の調和のとれた成長を促すためには、心の教育が最も大切だと言い換えることもできます。この複雑化した社会、高度化した社会を生き抜く児童生徒を育てていく、私たち教師の役割はますます大きくなったとも見ることができます。

そこで、本教育研究所では、平成30年度の道徳科の実施に向け、道徳教育の意義を押さえながら、児童生徒の道徳性を育むための道徳教育の充実に向けた取組の研究を深めていきたいと考え、平成27年度から3ヶ年計画で「子どもの道徳的実践力を高める道徳教育の充実 ～道徳科を要とした取組を通して～」を研究主題に設定し、研究を進めることといたしました。

1年次目の今年度は、道徳の教科化の背景や道徳教育の基本を再確認する意味で、道徳教育の目標や校内体制などについて、現場の声を踏まえて理論研究をしてまいりました。各学校において、本研究紀要が活用され、校内研修はもちろんのこと、各先生方の日常の教育活動がより一層充実したものとなるよう、ご期待申し上げます。

終わりになりますが、本研究の推進に当たり、ご指導とご協力をいただきました胆振教育局をはじめ、管内市町教育委員会並びに各市町教育研究会、そして貴重な授業実践をいただきました教育研究所研究委託校・実践校の皆様にご心より敬意を表するとともに、深く感謝申し上げます。研究紀要発刊にあたっての挨拶といたします。